

ANNA AND SIMEON

アンナとシメオン

第2号

ヴォーリズ建築
「シメオン黙想の家」
静かに心を神に向ける。

アシュラム
ASHRAM



シメオン黙想の家

住所／滋賀県近江八幡市土田町1191

シメオン黙想の家へのアクセス

《公共交通機関をご利用の場合》

JR琵琶湖線「近江八幡駅」北口、
バスのりばより 近江鉄道バス 長命寺線 長命寺行
「小幡上筋バス停」(6区間、5分)より徒歩10分

《お車で越しの場合》

名神高速道路「竜王I.C.」より車で20分

お問い合わせ先

アシュラムセンター

〒523-0894 近江八幡市中村町567-2

TEL.0748-33-4030 FAX.0748-33-8856

メールアドレス contact@ashramcenter.jp

ホームページ https://www.ashramcenter.jp



編集後記

新型コロナウイルス感染症のまん延から約3年が経ち、徐々に落ち着きを取り戻してきました。シメオン黙想の家とアンナ祈りの家も野外礼拝や見学会などで多くの方々をお迎えすることができましたので、そのご報告をお届けいたします。第2号は、黙想をテーマにリトリートアシュラムでの貴重な対談や新たに完成した築山に込められた想いにスポットを当てました。また今年は、榎本恵師の自邸である「ダブルハウス」がNHK朝ドラの舞台に起用されるなど様々な巡り合わせがありました。今後もこの場所が主の御用のために用いられることを祈りつつ、皆様のお越しをお待ちしております。

アンナとシメオン 第2号

発行日 2022年12月1日
発行者 アシュラムセンター
編集長 榎本 恵
副編集長 榎本 光太
編集 榎戸 基、榎戸 真弓
デザイン 阿久田 孝司 (DESIGN COLLECTIVE)
写真 榎本 光太、榎本 恵

カトリックとプロテスタントが アシユラムの「黙想」で共鳴

《対談》
2021年12月7日

山岡 三治 神父
平野 克己 牧師



イエズス会の黙想が
とても興味深い。
アシユラムの黙想も
似てるんじゃないかな。

平野 克己 牧師（以下平野） 聖書を読む時に、これはどういう意味とか、どういうことを言い表してるのか、かつての聖書研究の仕方は理念的に抽象的なことを見つけて安心する。だから具体的な風景とか風とか音とかは雑味でね。それは除けながら蒸留していくところがあつたのではないだろうか。永遠の人類の真理って。だけど、どうもそれが人を惹きつけなくなっているのではないだろうか。もっとう一つの真理ということでみんなが安心できないほどに社会がガタガタになっている。人生がごちゃごちゃになっているといいますが、いろんな思想が乱立してますし。その中でもう一度、本当に聖書の生の声を、生の風景の中に自分が浸りながらイエズ様に出会うというかね。そういう意味で、イエズス会がなさっている黙想がとても興味深かったです。アシユラム

がしている黙想運動っていうのも、それに似てるんじゃないかな。決して知的である必要はないわけです。そういうものをプロテスタント教会が回復しなきゃという思いが強くあります。そのためには牧師自身が回復しないとな。そういう意味では毎日1時間の黙想があるってエクササイズですよ。霊的エクササイズが毎日課されているのは素敵なことだなんて。毎朝ラジオ体操しなければ、体硬くなるばかりでね。沈黙ってただ黙るんじゃないで、聞くために黙るんですよ。ただ聞くってことを学ばないといけないんじゃないかと山岡先生のご講演を聞いてもっと思いました。プロテスタントの牧師って喋るの上手だからね。（笑）

山岡 三治 神父（以下山岡） アシユラムは本当に読ませてくれますね。しかも他の人がこう読んだって、分かち合いますね。そこでまたこちらの感情が湧き立てられるんですね。何も聖書字を聴くわけじゃないので、その人が御言葉から受けたものを話してください

る。これは素晴らしいやり方だと思えますね。今、カトリック教会では結構多くの講座が聖書なんです。入門講座的なものが減っているんです。そのおかげで、実は悪い点は、カトリックの教えを全然知らない。ミサのやり方とか、全然わからない。でも聖書は学んだことがある。そうやってはいけないので、両方バランス良く学べるようにしたい。その点ではプロテスタントの方々の聖書の読み方、アシユラムの聖書の読み方。それとカトリックの場合は今まで伝えられた教理を学ぶ。それをバランス良く学べたらと思うんですけど、なかなか挑戦がたくさんありますね。課題が多いです。

カトリックとプロテスタントが、
一緒に御言葉を中心にして
分かち合う。

ね。もっと楽しみながら歩んでいくことが必要なんだ。そうしながら、牧師は牧師として育っていくんだなと思いた。そういう意味ではイエズス会の習慣が羨ましいと言いながら、もう一方で私たちにもしっかりとあるってことを忘れないようにしようと思いました。

平野 もうひとつイエズス会のお話を聞いて思ったのが、牧師にとつての業ってやっぱり説教なんだなって。一週間ひとつの御言葉の前に座って、いつも心には語りかける相手のことがあるんです。あるいは、その時にたまたま面会に来た人とか、電話をかけてきた人とか、見たニュースとか。もちろんそのことを直接話すわけじゃないんですけど、このことと主イエスのお姿とどう関係してるんだらう。イエズ様は何を語りかけてるんだらう。そうしながら一週間かけてひとつの御言葉にずうっと耳を傾ける。もちろん苦しいんですけど

平野 私は1962年生まれなので、育ったのが第2バチカン公会議以降の学生時代でしたから、カトリック教会が近いものになったという思いがともあります。今回も山岡先生と一緒でしたし。よくお世話になっているのが裾野の修道院「黙想の家」です。本当に疲れ果てた時に、3日間ひとり個人黙想に行きました。山崎シスターが暖かく迎えてくださって。あるいは、「東アジア和解のフォーラム」に参加しているんですが、そこでも韓国のカトリックの方とも友達になれて。一緒に働ける場所がいろいろあることを嬉しく思っています。その上でもっとプロテスタントがカトリックを知ることができたらと思います。プロテスタントってプロテストですからね。どこかでプロテス

トしないといけない。ところが、あまりにもプロテスタント教会がカトリックの良い資産を知らないままにいるんじゃないですかね。例えば聖人です。やっぱり聖人の制度はいいなって思うんです。フランシスコと言った時に、ある光がイエスに従う背中を見ることができますよね。フランシスコの霊性を生かすことができます。マザーテレサもそうですし。オスカル・ロメロ大司教のこととはとても大切に思っています。ある特別な霊に導かれ、我々の霊の導き手としての聖人は、もってプロテスタントは大切にしたいいな。たくさん学ぶことはあると思うので、そういうことを個人レベルじゃなくて、どうしたら学ぶ機会を持てるかと思っています。カトリックの持つ成文祈禱の美しい文章を学ぶとか。なにより「主の祈り」です。もっと思いついて一緒に歩めればいいなって思います。

山岡 それは私も同じです。思い切つてね。一緒に何か行事をするっていうよりも、一緒に御言葉を中心にして分かち合う。分かち合いも言葉だけじゃなくて、やっぱりお互いの生活を思いやりたりとかね。牧師さんたち、昨日の晩も一緒だったし、その分かち合いもいろいろ学ぶところが多かったです。そういう機会をいろいろなところで持つ場を



Katsuki Hirano
平野 克己 牧師
日本基督教団 代田教会牧師



Sanji Yamaoka
山岡 三治 神父
イエズス会日本管区長補佐

※写真はシメオン黙想の家にて

黙	シ
想	メ
の	オ
家	ン

みなさんの尊い献金によって、シメオン黙想の家に主の息が吹き込まれ、聖書のみ言葉に聴き祈るアシユラムの修道場として歩み始めました。



く。
聖なる道を
歩

この築山を 「ゴルゴタの丘」 と名づけた。

そう、キリストが十字架にかけられ処刑された、
あのゴルゴタの丘です。

アシユラムセンター主幹牧師 榎本恵



シメオン黙想の家の前に、新しく築山が完成しました。杉苔の緑と玉砂利の白のコントラスト。その中央に凛と立つ一本の灯籠と、二本の六方石。青々とした葉が重なる蘇轍の群生と大きな自然石の手水鉢。確かに、使われているものの一つ一つは和風そのものですが、ヴォーリズの洋風建築と違和感なく存在しています。ちょうど、庭の中央にある大きなラビリンスを歩き、中央の花模様の石畳に到着し、ふと目を挙げると、それが見えるよう設計されているのです。

私たちは、この築山を「ゴルゴタの丘」と名づけました。そう、あのキリストが十字架にかけられ処刑されたゴルゴタの丘です。真ん中の灯籠と二本の六方石は、十字架をあらわし、手水鉢は、ピラトが手を洗い、蘇轍は、キリストがエルサレムの門をくぐった時に敷かれた枝を象徴しています。なんだか薄気味悪いとお感じになる方もおられるかもしれませんが、私たちキリスト教徒にとっては大切な十字架としてその後に続く復活は、大変重要なモチーフなのです。

実は、この建物を自邸として設計した佐藤久勝さんは、熱心なクリスチャンでした。この自邸、また彼の設計した数々の建築には、さまざまなデザインが施されています。残念ながら、この家が完成し、すぐに亡くなってしまわれたので、詳しいことは聞くことができませんが、家の中の卍模様の電燈、八芒星の文様、暖炉周りの凝った意匠など、それら一つ一つには、きっと深い意味が込められているに違いありません。

そんな中で、彼が「湖畔の声」に残した、「寂光に輝く」という文章の中に、この自邸のデザインについて、少し書かれています。「やがては池に水草が芽ぐみ、バルコニーには緋布を乾かし、ベテスダや、ラハブを語って、童共と交わらんことも楽しみの一つである」（1932年『湖畔の声』）。ここで、佐藤氏が触れている、ベテスダ、そしてラハブは、共に聖書の中に出てくる有名なモチーフです。当時教会学校の校長を務めていた彼は、きっとベテスダの池に横たわったままの病人をイエスが癒されたことを、またラハブの手引きで、エリコに侵入したイスラエル兵が、印として欄干から赤い布の吊るされた彼女の家を救ったという話を、自邸の池や2階の欄干を見ながら語ったことでしょう。

きっと、この建物には、さまざまな聖書の物語が、見立てられているに違いありません。そんな中、私たちは、新たに建物の前庭に、ゴルゴタの十字架を見立てました。実は、真ん中にある灯籠は、織部燈籠、通称キリスト灯籠と呼ばれているものです。隣の「アンナ祈りの家」の前の持ち主が、置いて行かれたものです。竿の上部には十字架を象徴する膨らみがあり、またその下には、土の中に埋もれていますが、マリア観音と思しきものが彫られています。もちろん、佐藤さんは知る由もありませんが、私たちもまた、彼に倣い。その庭に聖書のモチーフをデザインしました。この思いがきっと伝わることを祈りつつ。

どうか、皆様も、こちらへお越しの折は、ぜひこの築山「ゴルゴタの丘」を見に来てください。



ダブルハウス（牧師館）

住所 滋賀県近江八幡市池田町
※一般には公開されていません。

カムカムエヴリバディの主題歌はAの「アルデバラン」だった。アルデバランとは牡牛座の一等星で、暗い夜空で容易に見つけることができる。その名の意味は「後を追うもの」。「暗闇でしか見る」ことのできない光がある。私達はその光を追うものであり、また自らも世の光として輝くことでその後を続く者も出てきてくれるだろう。」と恵牧師はロッキングチェアを揺らしながら語ってくれた。

ダブルハウスは近江八幡市の池田町洋館街にあるヴォーリス建築。1921年に近江ミツシヨンの米国人スタッフの住宅として建てられ、最初にヴォーリスの両親とアメリカ人建築技師が住まいとした。左右対称同じ間取りの住宅を、縦に繋いだ「三コイチ住宅」である。ヴォーリスにとって会心の出来栄であったようである。自著「吾家の設計」でも「合理的な間取りと小住宅の設計例」として紹介されている。

シユラムセンター内部では大騒ぎになっていた。放送日までは絶対公言できない。が、全国各地の聖書教室のメンバーやアシユラムの友のほとんどは見逃すことなく最終回を視聴した。今だから言えることである。



ダブルハウス（牧師館）

《ヴォーリス建築》

N HK朝の連続ドラマ「カムカムエヴリバディ」は2022年4月まで放送された人気番組。昭和初期から未来2025年に至るまで母娘三代の100年物語。大正時代から始まったラジオ英語講座とジャズのスタンダードナンバー「On the Sunny Side of the Street」が物語をつないでいく。

最終回、ヒロインの一人「安子」（森山良子）が100歳になり、アメリカで平穏な生活を送っているという設定の4秒間のシーンに使われた部屋（写真右上）。ここは恵牧師が牧師館として住まう家、「ダブルハウス」と呼ばれる建物である。そして安子が座ったロッキングチェアは、故榎本保郎牧師が愛用していた椅子なのである。

実は、撮影決まってからというもの、ア

アシユラムセンターとゆかりのある場所を紹介していきます。
カムカムエヴリバディ最終回。
ラストシーンを覚えていますか？

● 修道場アシュラム

月に1回、シメオン黙想の家とアンナ祈りの家を用いた定員10名の小規模なアシュラムを行なっています。新型コロナウイルス蔓延の影響もあって参加者はまだ少ないですが、街の喧騒から離れて静まり祈る時間を得ることができます。シメオン黙想の家の温もりを求めて全国各地から参加者が来られています。



● ヴォーリス建築 全国ネットワークの見学会

ヴォーリスネットワークの見学地としてシメオン黙想の家が用いられました。家に入りきらないほどの方が見学に来られ、専門的な視点からの質問や感想が飛び交いました。アシュラムとは全く繋がりがない方がシメオン黙想の家を通して、近江八幡の地に集ったことに大きな喜びとヴォーリス氏の偉大さを感じています。今後も多方面の方が集える場となることを願っています。近江八幡市長も見学に来られたとか。

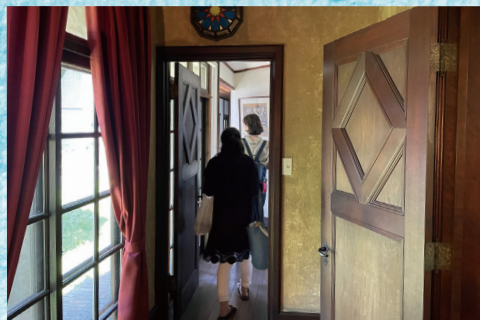


● 教役者のための リトリートアシュラム

年に1回、牧師や神父などの教役者のためのアシュラムを行なっています。2021年12月が第1回目でしたが、ラビリンスウォークの指導者や聖公会の司教などの方が来られ、宗派を超えた交わりがこのシメオン黙想の家で持たれました。同時期に行われる合同平和祈禱会やクリスマスコンサートなどのオープンイベントは、どなたでもご参加いただけます。

● 京都葵教会の野外礼拝

教会単位でのご利用も可能で、日本基督教団京都葵教会はシメオン黙想の家の玄関を演台にして、野外礼拝を行いました。20名程の方が参加され、昼食もベランダやアンナ祈りの家でいただきました（シメオン黙想の家内は飲食禁止）。その後は、ラビリンスを歩くグループ、近江八幡市内のヴォーリス建築を巡るグループなどに分かれて自由行動を行いました。礼拝もでき、ヴォーリス建築観光もできて皆様大満足でお帰りになりました。



● 近江八幡市立図書館読書会

近江八幡市立図書館主催の読書会がアンナ祈りの家で行われました。以前、「ちいろば先生物語」の読書会も行っていたそうで、その縁もあって今回の会が実現しました。40名ほどの方が参加されました。アンナ祈りの家には、スクリーンとマイク、スピーカーが完備されており、中規模の集会やイベントも可能です。読書会や音楽会、講演会などにご利用いただけます。

支 援 の お 願 い

私たちは、シメオン黙想の家、アンナ祈りの家、これらを拠点として誰もが集える共同体を形成し、ヴォーリス建築の保存活用を進めていきます。そのためには、建物の維持管理、購入費の返済、また今後の活動に多くの費用を必要とします。上述の共同体構想に共鳴し、積極的にご協力、ご支援、ご奉仕いただける方を会員という形で募集します。

金銭的なご支援だけでなく、建物や敷地の清掃

などのご奉仕、アシュラム集会へのご参加をいただけると幸いです。

ご協力いただいた方には、毎年本誌をお送りし、近況報告やヴォーリス建築などについてお伝えしていきます。また現在は、シメオン黙想はアシュラム集会等の利用に限定していますが、今後見学や宿泊を可能にしていき、ヴォーリス建築の魅力を伝えていきたいと思っています。

オンライン献金ができるようになりました。QRコードを読み取ってください。



感謝のメッセージ

主の平和

「アンナとシメオン」第2号を、皆様にお届けすることができましたことを、心より感謝いたします。

この一年の間、世界はコロナの感染拡大、またウクライナとロシアの戦争、そして気候変動による自然災害に苛まれてきました。また私たちの国も、急激な円安、政治と宗教の歪な関係、そして隣国との間の緊張など、内憂外患の状況にありました。そのような中での、私たち「アンナ祈りの家シメオン黙想の家」の船出ではありましたが、こうして無事に一年を過ごすことができたのは、皆様方の祈りとお支えにあったことを感謝いたします。特に、キリスト教系の宿泊研修施設（カトリックの修道院も含めて）が、長年の利用者減少による不振と、このコロナ禍が重なり、大きな打撃となって、惜しまれながらも次々と閉鎖されていくという状況を憂いておりました。

私たち、アシュラムセンターの「アンナ祈りの家、シメオン黙想の家」を用いての修道場アシュラムも、今年は、参加者が思ったようには集まらず、2年目を終えようとしております。幸い、皆様方の尊い献金やご支援により、なんとか赤字になることは避けられそうです。

神様から預かった大切な宝物であります。どうか、来年度は、多くの皆様に利用されるよう祈りを込め、スタッフ一同準備を進めています。

世界はますます混沌を極めようとし、経済も、昔のように右肩上がりにはいかないでしょう。しかし、このような時であるからこそ、落ち着いて、静かにすることが大切なのではないでしょうか。静かに心を神に向けることが、必要なのではないのでしょうか。庭にあるラビリンスは、その中心に向かって、心を神に向け歩くと同時に、そこに留まることなく、外へと向かって歩き始めていくのだそうです。私たちの聖書のみ言葉に聴き祈るアシュラム運動も、それは到着点ではなく、出発点なのです。ひと時、ここで静かな時間を過ごしたなら、そこからまた元の殺伐とした現実世界へと向かっていくのです。しかし、来た時と帰る時では、道は同じでも、その見る目が変わり、その聞く耳が変わり、その感じる心が変わっているのです。

どうか、来年こそは、皆様、この「アンナ祈りの家とシメオン黙想の家」へお越しください。共に、祈り、賛美し、歩き、食べ、そして交わる、喜びの時、コイノニア（霊交）を持ちましょう。皆様のお越しを、私たち一同、心よりお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本 恵